

第1回 八王子農業シンポジウム企画

市議会議員の方への農業アンケート回答報告

2018.4.21 八王子農業シンポジウム実行委員会

【目次】

(クリックすると該当の箇所にとびます)

[1 今回のアンケートの経緯・目的](#)

[2 アンケート回答の取扱注意事項](#)

[3 アンケート回答結果](#)

[○ 質問内容（共通）](#)

[○ 回答の表記方法](#)

[○ 議員の方の回答結果（回答の到着順）](#)

- [① 伊藤忠之 様【市民クラブ】（民進党）](#)
- [② 市川潔史 様【八王子市議会公明党】（公明党）](#)
- [③ 西本和也 様【八王子市議会公明党】（公明党）](#)
- [④ 荻田米蔵 様【八王子市議会公明党】（公明党）](#)
- [⑤ 相澤耕太 様【市民クラブ】（無所属）](#)
- [⑥ 佐藤 梓 様（社会民主党）](#)
- [⑦ 八木下輝一 様【自民党新政会】](#)
- [⑧ 小林ひろえ様【諸派】（立憲民主党）](#)
- [⑨ 青柳有希子 様【日本共産党八王子市議団】（日本共産党）](#)
- [⑩ 鈴木勇次 様【日本共産党八王子市議団】（日本共産党）](#)
- [⑪ 及川賢一 様【諸派】（無所属）](#)
- [⑫ 鳴海有理 様【八王子・生活者ネットワーク】](#)
- [⑬ 滝田泰彦 様【都民ファーストの会】※東京都議会議員](#)
- [⑭ 陣内泰子 様【無所属】](#)
- [⑮ 前田佳子 様【八王子・生活者ネットワーク】](#)
- [⑯ 伊藤裕司 様【自民党新政会】（自民党）](#)

[4 八王子農業シンポジウム実行委員会の今後の活動について](#)

1 今回のアンケートの経緯・目的

この度は2018.4.21に八王子で開催の「農業の未来を考えるシンポジウム～変わる農業、守る農業、進む農業～」を行うにあたり、想像以上に多くの方に関心を持っていただき、時代のニーズを

強く感じました。そのニーズをより大きなうねりにしたいという思いから、急きょ八王子の市議会議員の方の農業に対する意見を伺い、八王子の農業を政官民で盛り上げようとの考えに至りました。今回、現八王子市議会議員（一部、都議会議員）のすべての方にアンケートを郵送し、一部の議員の方から回答をいただくことができました。そちらをとりまとめて報告させていただきます。普段はなかなか聞くことのない議員の方の農業に対する声を形にして、市民や民間団体の意見と組み合わせながら、これから続く農業のあり方を探っていきたいと考えています。また政党や会派、派閥などを超えて、より建設的な議論になることを願っております。

2 アンケート回答の取扱注意事項

この資料は、広く多くの方に知っていただくのが目的ですので、共有や配布は可能ですが、注意事項として、政治批判の為の利用を禁止しております。

質問そのものも時数制限のない自由度が高いものになりますので、前提として比較や優劣が付きづらい内容となっております。あくまで建設的な議論の材料や勉強会などにご利用ください。

また、議員の方からいただいた回答は、修正加筆せず、基本的にそのまま使っています。

その為、要約などはなく、全体として見づらい表示となっております。あらかじめご了承ください。

3 アンケート回答結果

○ 質問内容（共通）

Q1：ご存知の通り農業は多くの問題を抱えています。農業の環境が激変する中、農業の在り方はどうなることが望ましいか、必要なビジョンは何か、を教えてくださいませんか。

ビジョンの範囲は日本でも都市農業でも八王子限定でも構いません。

Q2：今後の八王子・多摩地区の農業の活性化のために提案したい政策はありますか。

（地域活動、市民活動などの提案なども可）

○ 回答の表記方法

議員名・【会派】・（政党名）・Q1の回答（A1）・Q2（A2）の回答の順の表記です。

※表記はアンケート回答に記載された内容をそのまま載せています。少し補足の場合あり。

○ 議員の方の回答（回答の到着順）

① 伊藤忠之 様【市民クラブ】（民進党）

A1：都市農業者の都市農業での生活ができること

A2：生活ができること

[→ 議員一覧に戻る](#)

② 市川潔史 様【八王子市議会公明党】（公明党）

A1：従事している農業者および消費する消費者の利益を最大化することが目標と考えます。その為に必要な改革をすべきです。

他の産業でも言える事ですが時代が大きく変化するなか、先の目標を達成するには「既得権者」の大改革が先ず必要でしょう。農業の場合は、JA と農業委員会が既得権者と考えます。

A2：A1 の課題を前進させる為に、貴団体、農業者、JA、農業委員会、および消費者代表による討論会を何回か開催するのがまず第一と考えます。

[→ 議員一覧に戻る](#)

③ 西本和也 様【八王子市議会公明党】（公明党）

A1：・後継者の育成 ・農機具シェア制度の充実 ・安心な農地の貸出

A2：八王子には年間 300 万人の登山者数を誇る高尾山があり、そこで消費される食材量は相当数に登ると考えます。これらは他の地域で生産されるものがほとんどであることから、地場産の食材を使ってもらえるような取り組みを行ってはいかがでしょうか。

また、MICE 誘致について、市として力をいれていくことから、市内の飲食店にも安定して食材を供給できる体制を整えていくことも検討してはいかがでしょうか。

[→ 議員一覧に戻る](#)

④ 荻田米蔵 様【八王子市議会公明党】（公明党）

A1：

1 都市農業については、生産緑地の買い取り申し出が可能となる 2022 年までが重要な機関となる。

2 公明党は、一貫して都市農地を保全し、都市農業を維持すべきとの立場で

（1）生産緑地の面積要件の緩和（2）特定生産緑地制度（3）農地法の例外として都市農地の賃貸借などが可能になる（新法）制度を提案、創設してきた。

3 農家さんに様々な制度を理解していただき、それぞれの事業にあったメニューの選択を促していくことが大事

A2：成功例の情報提供を活発にすること。行政的に有用な農地を買い取ること。

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑤ 相澤耕太 様【市民クラブ】（無所属） ※市民クラブとしての見解

A1：八王子市の農業の場合、一般的に都市型農業と呼ばれる分野になると思います。都市型農業のメリットのひとつは「消費拠点の近くで生産できること」で、この生産拠点と消費拠点の近接化により、消費者の需要に対応した生産や販売が可能になり、生産者が利益を得やすいという経営上

の利点があると考えます。新鮮で美味しい農産物を地産地消で提供できることは消費者側にも十分なメリットがあります。一方で全般的に農地面積が狭いことから大量の生産は不可能なため、農業の維持・発展のためには利益率の高い作物や園芸農業に移行するなどの工夫が必要だと考えます。また、作物を育てて収穫する農業体験のレクリエーションとしての活用は、市民の健全な精神や健康の維持管理に役立つことが期待されますので、レクリエーション農園、企業の福利厚生施設としての農園、第一線を引退された高齢者の福祉農園としての活用など、従前とした農地という考え方ではない取組みを模索することが必要ではないかと考えます。また、子供たちに農業を体験させることは、農業への理解、食育や環境教育、理科教育という観点から大変有効だと考えますし、必要なことです。都市農業者との連携に基づいて収穫体験を実施することに止まらず、各学校に近い農地を活用して児童が自ら農作物を栽培・収穫して食する一連の農業体験など、農業教育としての農地の活用は有効な手段のひとつだと思います。

農地の有効活用に関して課題として思うことは、農地に対する従来の農業従事者(農地の所有者)のスタンスです。農林水産省が実施した都市農業に関するアンケート結果によりますと、農地所有者の約3割は「他人に自らが所有する農地を貸したいという気持ちはあるが現実には貸せない」と回答しており、その理由を見ると、所有する農地が土地財産としての個人の所有物であると考えている方が多いのです。同じ農業に関わる方々の中で、貴団体のように農業の推進を図っていききたいと考える団体がある一方で、違った考えを持った方々が割合多くいらっしゃる現実には、農業関係者の中で解決しておかなくてはならない課題ではないかと考えます。

都市型農業における農地の維持・確保に関しては他にも課題はいくつかあると理解しています。もう何年も前から、農業従事者の高齢化、後継者不足、といった担い手の減少・不足は喫緊の課題とされています。また都市型農業はサラリーマン世帯など農業と縁がない住民の生活圏と近接しているが故の、建物などによる日照、生活する上で必要な夜間照明に関わるトラブル、ほこりや臭気など、様々な摩擦が発生しやすく、お互いが共存していくための理解活動は非常に重要な取り組みになると考えています。

人が生きていく上で食は欠かせないものであり、日本の食の自給率が低下し続けていることは好ましいことではありません。教育の場で農業についてきちんと取り上げる必要を感じます。また新たな担い手の確保のためには、農業で安定した生活を送ることができる制度の設立・見直しが必要だと考えます。

A2:

●ここ数年、若い世代の方が農業や林業に新たに取り組んでいるニュースを数回耳にしました。

私が若い頃(昭和40、50年代)でも特に東京とその近郊(首都圏)では農業高校は少なかったと記憶していますが、畜産や草花を含めて農業系の勉強をしたいというニーズは割合高かったため、農業高校に入るには結構高い偏差値が必要でした。こう考えると若い世代は決して始めからサラリーマンを目指している訳ではなく、高校あたりでの選択肢に農業や林業があればそこに進んでみたいというニーズはあるのではないかと考えます。誰も彼もが普通高校から大学を出て企業や役所に就職して・・・という、判で押したような世の中は日本の将来のためには変えるべきだと思っており、少

子化の時代となり学校施設も余り気味の中、多種多様な学校に変更していくことは可能ではないかと思ひます。新たな農業高校は無理だとしても、農業科の設置くらいは出来るのではないかと思ひます。ニュースで拝見する新たな担い手としての若い世代の方々は、一度社会に出て方向転換してくる人たちが多く、そういう方々にもきちんと農業や林業というものに関わる勉強をさせてあげられる制度は必要ではないかと思ひています。

●八王子市の西側に行きますと、担い手のいない畑が目立ちます。こういった地域は高齢化率も上がっており、このまま行くと八王子市内で消滅町名が発生してしまうのではないかと心配するほどです。

こういった地域の有休農地を貸していただけないかと思ひており、近隣に、これも土地の提供をいただき市営で住宅を作り、農地とセットで募集を掛けることで担い手の確保と若い住民の地域への流入を同時に果たすことで高齢化地域の活性化ができないか、と、これは相澤個人が10年前から市には申し上げているのですが、今でもそのような政策を展開してみたいと思ひています。

現在、世の中は少子高齢化による人口減少の影響がはっきりと感じられるようになってきました。農業のみならず、様々な業態で慢性的な人手不足が課題となっていますし、日本中どこへ行っても都市の周辺地域では人口減少による様々な課題に取り組んでいます。働き手が少ない中で農作物を効率的に収穫するためには、広大な土地で機械を使った効率的な作業が求められます。八王子市のような地域の農業ではそれは難しいことで、何が申し上げたいのかと言ひますと、都市型農業と郊外型農業をしっかりと区切った考え方をして、八王子市の場合は、明らかに都市型農業をベースとした将来までの方向性をきちんと確立し、関わる方々が一同にその考え方を理解した上で道筋をつけていく、まずはそういった取組みが必要なのだと考えます。

大変、まとまらない回答になってしまつて申し訳ございませんが、以上とさせていただきます。

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑥ 佐藤 梓 様（社会民主党）

A1：遊休農地への課税強化や企業の農地所有解禁は危険です。協同組合の精神に立った地域インフラとしての総合農協を守っていくべきと考えます。また、八王子では、貴重な里山を保全する取組みをすすめて、新たに大規模なみどりを削って行つた開発行為は見直していくべきと考えます。

A2：2015年9月の市議会定例会での一般質問にて、都市農業振興基本法に基づき、営農困難が増える生産緑地の維持及び都市のみどりの確保、農業の担い手育成を目指した提案を行いました。2015年当時の生産緑地法の解釈の範囲で、生産緑地の所有者を「主たる農業従事者」とみなし、その指導の下であれば市民が生産緑地を「耕作できる」ため、将来的に法改正により生産緑地が賃借可能となることを見越して、所有者と耕作意欲のある市民とをマッチングし、生産緑地の維持をはかる、という提案でした。即ち、将来の営農を維持することを目的に、生産緑地を体験農園として活用してもらつたという提案です。（参考：2015年9月議会会議録 goo.gl/QxJMNM）

ことし 2 月、農水省が「特定都市農地貸付」という新たな仕組みの導入を発表し、今後は市民や NPO が生産緑地を所有者から直接借りて運営が行えるように制度が変化します。先般の議会においても、生産緑地の賃借をめぐる問題に関する質問や提案が他の議員からも行われました。こうした動きに先駆けて八王子市で提案を行ったことは意義があったと思っています。

また、私は CSA 農園を八王子でも実施できるような取り組みを行うべきだという提案も行っていきます。(参考：2015 年 9 月議会会議録 goo.gl/MkW84m)

これと関連して、の空き家を活用した住宅政策の一環として、市街化調整区域の空きアパート等を障がい者グループホームとして借り上げてもらいやすくすること、利用者の方が周辺の農地で農作業などを行いやすくすることを提案しています。

今後、八王子・多摩地区の農業の活性化のために重要であると考えていることのひとつは、シニア世代の農業参加です。定年後に園芸をやってみたいという人、家庭菜園をやっていたが、規模を大きくして農作業を行ってみたい、という人が増えています。まずは生産緑地の賃借からはじめ、農家の方の指導を受けられる体制をつくりながら、地域に小規模な農業生産法人をつくっていくことが、CSA 農園の実現につながっていくのではないかと考えています。

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑦ 八木下輝一 様【自民党新国会】

A1：我が国の食料自給率を確実に上げることが重要だと思います。そのための施策展開が求められていると思いますが、それぞれの国の得意分野を更に伸ばし、食料のボーダレス化を進めるのがよいと考えます。その意味で日本の農業は将来展望は明るいと思います。

日本の農業技術ときめ細かさで、世界に売れる農業産品がたくさんあると思います。当然食ですので、安全安心は言うまでもありません。

家庭的農業と産業的農業をしっかりと区別しながら施策を決定しまして、大胆な農業施策を実施して、日本の農産物を世界各国の人たちに提供できるようになってもらいたいです。

A2：農業規模の拡大と観光事業との連携

規模拡大を進めるには、人的資源や設備資源等の効率があがると思います。

農業法人が積極的に耕地面積等の拡大や生産品目等の拡大がしやすい環境を作ることが大切だと思います。

また、大都市近郊という八王子の立地条件を生かし、観光事業と農業をもっと増やす工夫が大切だと思います。

土を耕し、作物を作るという単一の作業だけでなく、数々の品目を市内各地で体験入手したり自ら作り上げるような、豊かな八王子の農産物を多くの都民や外国人に体験してもらう。春から秋までの時間軸の中で、リピーターとして八王子にかかわってもらいたいと思います。

外国人には、東京から近いところで素晴らしい農業体験や食体験ができるものを考えたいと思います。

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑧ 小林ひろえ 様【諸派】（立憲民主党）

A1：農業の在り方について

八王子市の農業は、生産額・農地面積ともに東京都内の約 1 割を締める都市型農業を展開しています。

都市型農業は、単に農産物の生産だけでなく、防災・教育・環境保全等、様々な多面的機能を求められるようになってきていると考えています。

例えば、災害時、ビニールハウスは一時避難場所にもなり、農産物は、非常時の食料として確保できる他、火災時に延焼するのを防ぐ役割もあります。また、食育や農業を体験することによる農業の理解促進等、教育機能もあり、そして、環境の保全や景観形成、生物多様性の維持等も担っています。

今後は、農業におけるコミュニティ・エンパワメントを進めていく必要があると考えています。

A2：農業の活性化のために

農産物の有効活用として、今後、建設予定の給食センターに6次産業のための加工機能を持たせ、6次産業化のプランナーを交えての加工品の開発を行い、八王子ブランドの加工品を作る。

生産と消費が近接化していることを強みとして、八王子ブランドの農産物や6次産業による加工品をシティプロモーションを進める中で、積極的に活用するよう支援する。

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑨ 青柳有希子 様【日本共産党八王子市議団】（日本共産党）

A1：農家の営農の自由を保障するために生産農業所得増加につながった実績をもつ別所得補償制度のような所得捕食制度や価格補償、農地の保全を図る。

A2：あたたかい中学校給食の開始にともない、八王子産農産物の使用率を抜本的にあげ就農者を増やす取り組みにしていく。

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑩ 鈴木勇次 様【日本共産党八王子市議団】（日本共産党）※会派としての意見

A1：

1、日本の農業を守るためにはまず現政府が進める TPP 政策を止めさせることです。農業生産環境が違う国の農業を市場原理で競争させることは日本の農業に壊滅的打撃になることは明らかです。米国などでは買い取り制度や価格保証制度もあるように、自国農業の保護に力を入れている。

2、日本の農業を支えているのは家族経営であり、比較的規模の小さな経営基盤である。政府は農地の集約化など規模の拡大化をめざし、支援もそれを進めるためのものが多く家族経営に対するものは皆無と言ってよいほど偏ったものになっている。

こうした農業支援のあり方も改める必要がある。

3、日本の自給率を高めるため数値目標をきちんと定め5か年計画並びに長期計画を策定すべきである。

4、農業経営を成り立たせるための価格保証制度の導入も考えるべきである

A2：

本市としてできること

1、生産緑地の指定条件を緩和すること、国も認めているように500㎡から300㎡に条例変更すること。

2、農家の直売所施設への助成（たとえば売上高に対し20%程度の助成を行う）

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑪ 及川賢一 様【諸派】（無所属）

A1：市内農地の自然環境を保全していくとともに、安心して安全な農産物を市民が享受するうえで必要な耕作面積と農業生産高を維持していくこと。

そのために必要となる農業生産者数を確保するために、後継者の育成と農地の継承を進めていくことが必要だと考えます。

様々な就職先がある現代において、次世代の後継者を育てていくためには、農業のやりがいと、儲けを作っていく必要があり、農家を支える様々な仕組みを作っていきたいと思います。

A2：

●共同の食品加工場の建設

6次産業化に向けては、加工品を作るための設備の購入費用や保健所の許可などの負担の大きく、個人経営の農家では加工食品の製造が難しい。

また民間の食品工場に依頼するにもコストを抑えるためには注文ロットを大きくする必要があることから、販売リスクが大きくなってしまおうという課題がある。

そこで市内農家が共同で利用できる食品加工場を設立し、市内農家が設備コストや保健所許可等の負担なく加工食品を製造できるようにする。

●料理できる人口の増加

一般消費者のおける野菜の消費を増やすために、家庭、学校、生涯学習等の場において調理教育を推進する。これまで料理していなかった人が料理できるようになることで、日常的に野菜を購入する人口を増やす。

●共同の納品センターの設置

市内飲食店からは市内の農家と直接やり取りをしながら野菜を仕入れたいという需要があるが、店舗ごとへの配達にコストがかかるため、市内飲食店と市内農家の連携は進んでいない。

そこで共同で使用できる納品センターを中心市街地に設置し、これまで店舗ごとに配達していた飲食店への納品を一括でセンターに納品できるようにすることで、配達コストを抑え、市内飲食店へ

の市内農家からの仕入れを増やす。

参考 URL：八王子市議会議事録 平成 28 年_第 2 回定例会（第 3 日目）

www.city.hachioji.tokyo.dbsr.jp/index.php/8723944?Template=doc-one-frame&VoiceType=onehit&DocumentID=1570

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑫ 鳴海有理 様【八王子・生活者ネットワーク】

A1：「地域内循環」の実践がキーワード。

農業の価値は野菜など食べ物の「生産」だけではなく、食文化、生物多様性、エネルギー、コミュニティ、福祉、など様々な価値の側面があります。昔から農業を中心として暮らしが形成されてきました。生産→消費の関係性だけでなく、家庭生ごみ、畜産堆肥、種など目に見えるものの循環から、お金の流れまで、地域内でどう循環していくかを考えて「農」とともに生きるまちづくりにつながるものだと考えます。

A2：

●利用の拡大

小学校、中学校、保育園など学校給食では積極的に地域の農産物を使うこと。その他地域の飲食店などでも地元野菜の利用率を上げていく必要があります。そのための農家が出荷しやすいしくみの構築。契約作付けなどをすすめる、農家の安定した収入確保につなげること。スーパーなど小売店では地元産の野菜と他の産地の安い野菜と競合しないような販売をすすめる。そのために農家と消費者をむすぶコーディネーターのような役割が必要ではないかと考えています。

●農地の保全

現在の農地バンク制度や市民農園など農地活用の仕組みはあります。それらのしくみを充実させていくことはもちろん、「土」に戻すことも考えていいのではないのでしょうか。

空き家、空き地、山林化した場所、遊休農地とも呼べない、眠っている場所が沢山あります。東京はどんどん土に触れられる場所が奪われていっています。これからの新たな視点として、土を復活させコミュニティや文化のある暮らしを取り戻すということが必要です。

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑬ 滝田泰彦 様【都民ファーストの会】※東京都議会議員

A1：農業従事者の減少や高齢化が進む中で、農業・農地のあり方を再定義しなければなりません。

特に、都内都市農業では、生活の場のすぐ近くにある貴重な緑地・自然空間であり、農業そのものの価値だけでなく、「魅力ある都市づくりに寄与する農業」という捉え方で価値を発揮する必要があると考えています。農業そのもので完結は出来ず、地域とのかかわりを積極的に取り組むことの出来る担い手と、それを支える制度づくりを進めなければなりません。

A2：生産緑地法施行から30年を迎える2022年、農地の宅地化が一気に進みかねない危機が、目前に迫っています。まずは、特定生産緑地の指定に出来る限り移行させる。限られた時間の中で、農家の皆さまへ周知し、理解を得ていくために迅速な対応が必要です。都議会にて都市整備委員会を担当しており、この点について、八王子市や他の市区町としっかり連携をして危機感を持って進めていきます。

一方で、生産緑地の賃貸円滑化を進めたいと思います。A1で述べた通り、意欲とアイデアのある担い手に、農地を貸したい所有者が不利・不安なく継承できる環境を整えていきます。

⑭ 陣内泰子 様【無所属】

A1：まず自給率を高めることが必要と考えます。そのためには、農業をやって暮らせる環境がどうしても必要です。米ばかりをつくるという事ではなく、また遠くへ輸送して、食物を得るのではなく、短い流通システムをつくること急務です。

A2：お百姓さんは百の仕事をこなすのですが、都市市民にとって、なかなか同じようなマネはできません。わがままかもしれませんが、ちょこっと楽しんで手伝い、といった農との関わりがもっと広がれば良いと思います。

といっても、なんでも準備して、ということではなく自分でやる作物を育てる喜びを感じられるような仕かけが大事です。

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑮ 前田佳子 様【八王子・生活者ネットワーク】

A1：八王子市内のそこそこに、小さな畑、貴重な田んぼがある、という環境を、意図的に戦略的に守り、活用してゆく。八王子の野菜は、どうしても品種が偏るので、できる時期にたくさんできてしまうので、冷凍や加工によって、長く食べられるような施設設置の応援や、機械のレンタルや講習など。

A2：農的なくらしと、農を生業とする農業は全く違いますが、市民のくらしになかに、農から発生する様々な手仕事などを取り込むこと、取り込める環境を作ることが、八王子というまちの強味になると考える。農家となって直接農業で食べてゆけるようになるのはなかなか難しいので、複合的に農的暮らしを取り入れることで、まちの魅力となる。そこをうちだせるような政策はさまざま考えられる。生物多様性地域戦略を様々な職業の人たちでつくりあげてゆくこと、「イチからつくる」イベントを学校などで行うなど。市の政策とすると面白くなるので、市民や企業のアイデアをあとおしできるようなしくみづくり。

[→ 議員一覧に戻る](#)

⑩ 伊藤裕司 様【自民党新政会】（自民党）

A1：自給自足を目指して、一步一步前進する施策が必要。
後継者が受け継いでいける農業経営を目指す事。

A2：回答なし

[→ 議員一覧に戻る](#)

4 八王子農業シンポジウム実行委員会の今後の活動について

八王子農業シンポジウム実行委員会は、八王子を含む多摩地区の農業を盛り上げたい有志の集まりです。特定の固定メンバーの集まりではなく、企画や目的に応じてメンバーも変化していきます。今後の活動としては、今回のような大きなシンポジウムを年に2回と定期的な勉強会や農家さんの畑に伺い援農を通じた交流会を行う予定です。

八王子農業シンポジウム実行委員会にご興味のある方は、八王子農業シンポジウム実行委員会のFacebookページの「いいね！」ボタンを押して、フォローしていただければ逐次、情報を発信させていただきます。

<https://www.facebook.com/八王子農業シンポジウム実行委員会-536975949993157/>

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

八王子農業シンポジウム実行委員会 山田正勝